

平成二十年八月増刷

平野町の日切り地藏さん

平野町町内会
平野町町内会地藏尊世話人会



はじめに

平野町の「願いごと叶う日切り地藏尊」は町内会のお地藏さんであつて、平素の管理はもちろんのこと、毎年八月二十三、四日の例大祭には町を挙げて法要と供養を修行しています。このお祭りを町内会が行うようになつた経緯を知っている町民が年とともに少なくなつて来ました。ここらで一応この由来を記録に留めておくことを思ひたち、古い方方のご教示を一つの骨組みにまとめたのがこの稿です。

このパンフレットによつて、少しでも町内会のお地藏さんへの関心と理解を深めて戴ければ、筆者の喜びこれに過ぎるものはいません。

この由来記をまとめる為に、特に重要な資料を提供して下さつた方方に芳名を掲げて感謝の意を表します。

南竹屋町	上田四郎左衛門 殿
小町	延命院岩室良隆 師
平野町	嘉本 宗 朝 殿
同	住川 雅 文 殿
同	田村 多三郎 殿
宇品町	田中 滋 殿

南竹屋町	寺本 悟 殿
銀山町	畑 義 夫 殿
観音新町	向井 ツヤ子 殿
廿日市町	望月 松 治 殿
瀬野川町	山根 春 人 殿
千田 小 学 校	
中国新聞社	殿
平野町町内会引き継ぎ文書	
広島市役所 企画課	殿
広島電鉄株式会社 業務課	殿

昭和四十八年三月 平野町町内会長 三宅吉代

昭和五十七年八月 増補

平野町町内会長 三宅吉代

平成十四年八月 増刷

平野町町内会長 田村義隆

代表世話人 唐津幹雄

平成十九年七月 増補

平野町町内会長 石本重夫

町内会地藏尊代表世話人 唐津幹雄

平成二十年七月 増刷

平野町町内会長 石本重夫

町内会地藏尊代表世話人 唐津幹雄

目次

日切り地蔵尊の坐像および所在地図……………	3
日切り地蔵尊遷座30年大祭（昭和57年）……………	4
日切り地蔵尊遷座50年大祭（平成15年）……………	4
道しるべ「逢分（の）松」（唐津氏宅前）……………	5
平野町京橋川河畔の桜土手……………	5
願いごと叶う日切り地蔵尊の由来	
一 日切り地蔵尊の発祥……………	6
二 平野町に來られたお地蔵さん……………	6
三 昭和初期ごろのお地蔵さん……………	6
四 被爆したお地蔵さん……………	7
五 町内会の籍に入ったお地蔵さん……………	7
六 盆踊り会場のぐるぐる回り……………	8
七 お堂の衣装替え……………	8
八 遷座三十年大祭……………	9
九 まとめ……………	9
明日への前進……………	10



日切り地蔵尊の坐像



日切り地蔵尊の所在地図



日切り地藏尊遷座30年大祭（昭和57年）



日切り地藏尊遷座50年大祭 平成15年8月23日（平葦千代さん提供）



道しるべ「逢分(の)松」(唐津氏宅前)



平野町京橋川河畔の桜土手

願いごと叶う日切り地蔵尊の由来

一 日切り地蔵尊の発祥

平野町に祭る日切り地蔵尊の発祥については定かでない。大正の始めころ、堀川町に住む畑吾平なる人があり、地中より見いだされたこの尊像を自宅に安置した。名を日切り地蔵と言ひ、「日を切つて諸願を成就させる」というので多くの信者が同家に集まり、講をつくつて日日の供養を勤めたという。

二 平野町に來られたお地蔵さん

平野町がまだ南竹屋町の一部であつた大正の中ごろ、講中の一人で現在の平野町に製材業を営む丸山某氏が地所を提供された。ここにお堂を建て、地蔵尊を畑氏宅からこの地に移して安置したのが平野町のお地蔵さんとなつた。

この場所は現在、当町三番二〇号の鶴村梅一氏宅付近の路上に当たつてゐる。当時このお堂の前の道路は溝川に沿つた狭い農道で、周囲に人家も少なく、ここから西の方を望めば三本松（現在、南竹屋町東儀医院の付近）が広い畠の間の中に空高く聳えていたというから、文字通

り「村のはずれのお地蔵さん」であつた。この地蔵尊から功德を受ける人は日日に多く、「願いごと叶う日切り地蔵尊」の名は漸く遠近に高くなつた。

三 昭和初期ごろのお地蔵さん

大正十三年四月一日、千田小学校創立。昭和四年、広島産業博覧会開催。

昭和六年四月一日、平野町を通過する市内バス（當時は乗合バスの名称）が開通した。これは御幸橋を起点とし、千田小学校前、平野町「逢分（の）松」、南竹屋町三本松、富士見橋を経て流川方面に向かう路線であつた。因（ちな）みに平野町の「逢分（の）松」は路標とともに現在の五番一〇号荒木寛治氏宅付近にあつた。現在は六番一八号唐津幹雄氏前庭に保存されている。

この頃から平野町付近は急速度で人家が立ち込み、道路も拡張整備されて、町はずれの風景から町中の住宅地へと進んだ。ここに昭和八年十二月一日、我が平野町は鶴見町、富士見町、宝町および昭和町の四か町とともに南竹屋町から分かれて新しく誕生した。

日切り地蔵尊の参詣者も益々多くなり、毎年八月には畑氏を祭主とする例大祭が行われたという。

四 被爆したお地蔵さん

昭和二十年八月、原子爆弾によってお堂は灰燼に帰し、地蔵尊像と賽銭筒および破損した「かね」だけが焼け残った。賽銭筒の裏には伊藤鉄工所の銘があり、現在の賽銭筒である。

また「かね」も破損のまま昭和四十七年まで使用していたが、同年八月の例大祭のときからこれを大鈴に代え、「かね」は堂内の一隅に保管してある。

畑吾市氏はこの原爆によって被爆死された。享年六十二才。

平野町や南竹屋町一帯も焼野ヶ原となり、住民の多くは被爆死し、残る人びとは四散した。

終戦後、畑氏の子息義夫氏が衣鉢を継ぎ、瓦礫の中からお堂を再建、地蔵尊の堂守りを勤められた。広島市が復興するにつれて参詣者が集まり、やがて八月の例大祭も修行する程になった。

五 町内会の籍に入ったお地蔵さん

昭和二十八年、広島市の都市計画により、地蔵尊の安置場所を失うという事態が生じた。お堂の位置が都計の道路上に当たったのである。

時の町内会長田中隆雄氏は畑義夫氏と話し合い、この地蔵尊の管理を平野町町内会（当時は親和会と言っていた）が引き継ぐことになった。

田中氏は自己の所有地のうちから現在の敷地を地蔵尊に提供し、町内会員、信者、有志などからの寄付金によってお堂を建立した。さらに同年八月二十三日、町内会長が祭主となり、導師には比治山下の多聞院亀尾有賢師、脇導師には小町の延命院岩室良隆氏外数名の僧尼を招聘して、盛大に落慶法要および遷座祭を修行した。御詠歌を詠唱する者も十数名参列し、稚児行列も行なわれた。この日から日切り地蔵尊は「平野町町内会のお地蔵さん」となれた。

昭和二十八年八月二十四日付け中国新聞朝刊には、写真入りで当日の模様を次のように報じている。

『稚児さん繰り出し地蔵さんのお引越し

二十三日午前九時から広島市平野町では田中町内会長が祭主となって、同町にある日切り地蔵尊の遷座式ならびに遷座祭を執行、稚児行列などで色どりを添えて盛大であった。いままでの場所が都計により四十メートル道路となるので、約五百メートル離れた同町稲荷社東側に遷座したもので、同町ではこれを機に町民間の親和を図る意味から夜は盆踊りなどを行いにぎわいをみせた。

写真は日切り地蔵尊の遷座行列（写真説明文）』

八 遷座三十年大祭

昭和四十四年以後は、八月二十三・四日の日切り地蔵尊例大祭は地蔵尊堂で修行。夜は平野公園で供養の盆踊りの形式で、特記するような事項もなく平穩に推移した。本年（昭和五十七年）、遷座三十年（満二十九年）を迎えた。

町内会では、この三十年祭を記念して、平年の行事に次の三項を追加して、『日切り地蔵尊遷座三十年大祭』を奉修し、日切り地蔵尊の隆盛と町内会員の親睦増進を祈念することを決めた。

一 大祭を八月二十二・三・四日の三日間に延長する。
第一日の八月二十二日（日）の法要は午前九時より十二時までとし、稚児行列を加える。稚児一五二名が決定している外、町内小中高生総出の行列を計画。午後は各自参詣。

二十三・四日は例年通り午後六時より九時まで、法要と盆踊り供養奉修。その他の時間は各自参詣。

二 三十年記念大幟三十旒を新調し町内各所に掲揚（八月七日）。

三 三十年記念大提灯二十張りを新調。さらに日切り地蔵尊前八米市道に横断掲揚（八月二十一日）。

九 ま と め

以上のように、昭和二十八年以来、毎年、曜日に関係なく、八月二十三・四日、町内会長が祭主、町内会全役員が執行委員となつて、例大祭および供養盆踊りを修行し現在に至っている。

また、法要の導師は第二回以来、引き続き小町延命院岩室良隆師をお迎えしている。

このパンフレットは昭和四十八年に印刷配布したものです。が、今年は丁度三十年祭に当たつたため、記念号として「遷座三十年大祭」の項を増補して、再び町内の各戸にお送りする。

平成十四年八月 故 三宅吉代氏を敬い原文のまま増刷する。

(編者註―文中に四十メートル道路とあるのは八米道路の誤りである。また同町稲荷社とあるのは田中木工所内の稲荷のことと思われる。新旧お堂の遷座距離は二百メートル位である。)

この新聞記事に述べられているように、町内会が日切り地藏尊を引き継いだ目的は「町内の親睦増進」である。またこの目的が、爾来、町内会が規約の事業として、日切り地藏尊を管理している理由でもある。

なお、田中隆雄氏は昭和三十一年、宇品町に転出し、田中木工所は広電バス第二車庫となって現在に至っている。田中隆雄氏は昭和三十八年に亡くなられた。

六 盆踊り会場ぐるぐる回り

さて盆踊りの経過を見ると、盆踊り会場は当初は現在のバイパス平野町歩道橋附近の道路上に当たる広場であった。

当時、平野町の北端は現在の昭和町八番南半、十一番および十二番を含んでおり、バイパスは平野町北部を横断して建設された。バイパスの北側に平野町町内会の一組から五組までがあったので、この広場は町北部の中心位置として恰好の盆踊り会場であった。

年を経て都市計画が進み、昭和四十一年十二月二十五日、平野橋が開通したが、これと前後してバイパスも完成した。この年の夏、この広場は無くなっていた。

また、その前年、昭和四十年四月一日、町区画の改正があつて平野町が縮小された。バイパス以北は昭和町に、また現在の南竹屋町九番南部、十番および十一番南半が同町に、それぞれ編入された。昭和四十一年からは平野町五番にあつた藤田組の空き地を借用して盆踊りを行った。

やがてこの空き地も、昭和四十三年夏を最後に住宅が建築された。幸い同年、平野公園が完成したので、翌四十四年よりこの公園を使用して現在に至っている。地藏尊遷座祭以来、一年も欠けることなく供養盆踊りは継続されている。

七 お堂の衣装替え

なお、お堂の建物については、当初は木造であつたが、昭和四十年夏、時の町内会長山根春人氏が火災予防の見地から鉄筋ブロック造りに改築した。同年八月二十三日例大祭に重ねて、小町延命院岩室良隆師を導師として落慶法要を催した。これが現在のお堂である。

明日への前進

国道二号線に近い日切り地蔵尊が平野町町内会に入籍して、すでに五十数年の歳月が流れました。振り返りますと、特に過去十年の間に多くの住宅用マンションが平野町京橋川河畔の桜土手に沿って建ち並び、この趨勢（すうせい）はしばらく続きそうです。

新しく平野町に來られた皆さんには、日切り地蔵尊の由來について明確ではない方もおられるのではないでしょう。

日切り地蔵尊は靈驗灼（あらた）かにして、お堂の中では今だに朝に夕べに線香の香りがくゆり続けております。このことは町内外から多くの参詣人があるということを感じます。

先々代会長三宅吉代氏が執筆されています本冊子に掲載された「願いごと叶う日切り地蔵尊の由來」以外に、去る五月十九日、町内会規約第七章に新しく「平野町日切り地蔵尊」の条項を五項目に分けて、総会の承認を得て記入致しました。（次のページに別記）

これまで平野町は八月二十三日、四日の両日、慣例として例大祭を挙行し、盆踊りを行ってまいりました。しかし平野町発展の将来を考えてみますと、地蔵尊信仰の形態も時代とともに変容し、すでに今まで挙行してきた旧來の盆踊りは町内の皆さんには馴染（なじ）まぬものと

なってきたようです。盆踊りに代わる新たな祭りの形態を模索する時代になってきたのでしょうか。

因（ちな）みに江戸時代初期、現在の平野町は竹屋村に属し一面の沼地でありました。更に、その竹屋村の一部には切支丹（キリシタン）新開もあり、歴史的にみましてもかなり興味を引き起こす地域であります。

町内会役員および地蔵尊世話人は地域の皆さんから、日切り地蔵尊例大祭に行う祭りの形態について適当なアイディアは出ないものかと期待しています。チョツとしたアイディアでも結構です。何かありましたらお知らせ下さい。お聞きしに参ります。

若い人たちは日切り地蔵尊に余り関心を払わないかも知れません。しかし年齢を重ねるにつれ、日本人、いや東洋人であれば地蔵尊の前を歩けば手を合わせたくなる気持ちを出（で）ようしゅつしてくるのではないのでしょうか。今後とも八月二十三、四日には例大祭を挙行致します。その際はご案内を致しますので、よろしくご協力下さい。追加文章「明日への前進」は今回新しく付け加えたものです。（文責・南波）

平成十九年六月

平野町町内会長

石本重夫

日切り地蔵尊代表世話人

唐津幹雄

(別記)

第七章 日切り地蔵尊

第二十一条

- 1 平野町にある日切り地蔵尊は、平野町町内会が管理・運営する。
- 2 管理・運営には若干名の世話人会を設ける。世話人会には代表一名をおき、町内会長は世話人に加わる。
- 3 日切り地蔵は靈驗灼(あらた)かにして拝観者が多く、今も毎年八月二十三日、二十四日の両日、町内会と世話人会が共同して日切り地蔵尊祭りを広報し、且つ挙行する。
- 4 町内会総会において、毎年地蔵尊に関する寶錢・寄付金について報告し、決算の承認を受けねばならない。
- 5 世話人は町内会の理事に加わる。

表紙と裏表紙の紫陽花および地蔵尊、逢分(の)松、京橋川河畔の写真は南波勝子さんの写真を使用させて頂きました。

